

主要国における L P ガスの政策的な位置付けについて

第一研究部ガスグループ 研究員 青山 明

主要国における L P ガスの政策的な位置付けについて横断的にまとめている文献が少ないので、今回、各国毎に既存の資料に基づき、主要国の L P ガス政策等に係る事項の比較表を作成した。内容は各国のエネルギー政策から始まり、L P ガスの需給や市場動向や供給の安全保障への対応や制度等を記述した。

対象国は世界的にエネルギーの需給に影響が大きいイギリス、フランス、アメリカ、韓国、中国とした。

この中で特に注目すべき国は中国であり、現在、北京オリンピックに向けて環境問題に対する対応が積極的であり、石炭からクリーンなエネルギーである天然ガスや L P ガスへの転換が進められてきている。国内のエネルギー需要の高まりから国内の石油や天然ガスの生産では供給が不足傾向であり、石油・天然ガス・L P G の輸入を実施している。L P ガス国際セミナー2002 における中国市政工程華北設計研究院と中国ガス協会のプレゼンテーションによると 2005 年には中国国内需要と国内供給との差が約 9.9 百万トンで、これを海外からの供給に依存する可能性があるかと予想している。極東アジアにおける L P G 輸入において存在感が増してきており、我が国への影響を注意深く見守りたい。

今回の資料作成にあたり、L P ガス振興センターや石油情報センター等のご協力に謝意を表すものである。

お問い合わせ : ieej-info@tky.ieej.or.jp